

わたしたちの暮らしを支える 生物の多様性

詳細 環境生活課 ↗ (32)6331

生物多様性とは

「生物多様性」とは、地球上にいる3,000万種もの生き物たちの豊かな個性とつながりのことです。これらの生きものは、必要とする環境や栄養源などが異なり、それぞれが特有の個性を持っています。そして直接的または間接的に互いに支えあって生きています。

わたしたちの暮らしを支える生物多様性

ホッキ貝やハスカップ、魚や野菜、果物といった食料、水、紙、木材や繊維などの原材料、医薬品に使用する遺伝子資源、観光資源となる美しい景観、気候の安定などの生物多様性を基盤とする生態系から得られる恵みを「生物多様性の恵み(生態系サービス)」といいます。私たちの暮らしはさまざまな生態系サービスに支えられています。



樽前山麓の自然



ハスカップ



とまチョップ水

子どもたち、将来の市民のために生物多様性を

生物多様性は、経済活動により減少・劣化の一途をたどっているといわれています。私たちの世代だけではなく、子どもたちや将来の市民が安心して暮らしていくために、人類の生存基盤でもある生物多様性の減少・劣化を食い止め、さらには生物多様性が向上するように行動していくことが必要です。

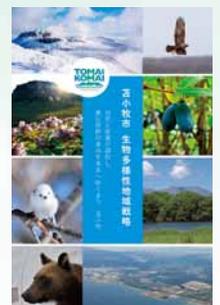
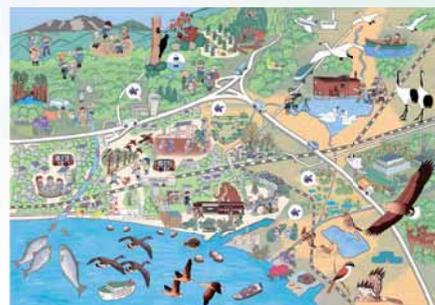
苫小牧市生物多様性地域戦略とは

戦略本編はこちらから▶



生物多様性地域戦略は、生物の多様性をより良くしながら守り、将来にわたって資源として使い続けることができるようにするための考え方や政策をまとめた、生物多様性基本法に基づき都道府県や市区町村が作る基本的な計画です。本市では、令和5年度から地域戦略の策定作業を開始し、今年9月に完成しました。

この戦略づくりでは、市民の皆さんや企業の方が参加したワークショップで提案されたアイデアを踏まえ、基本的な考え方や目標、取り組みをまとめました。また、最終的なゴールとして2050年に実現を目指す将来像「自然と産業が調和し、勇払原野の恵みを未来へ紡ぐまち 苫小牧」をイラストで表現し、その実現に必要な事業や取り組みを約60の施策として掲載しています。



2050年将来像「自然と産業が調和し、勇払原野の恵みを未来へ紡ぐまち 苫小牧」